

# 女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

えりも町立えりも岬小学校 高橋校長(前 様似町立様似小学校教頭)



## Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

女性が活躍できる社会になってきてはいるものの、どんなに頑張っても成果を上げても“上手くいくのは当たり前”、うまくいかないと途端に“女性だからね”と言われることがあるのも事実です。それが自分を奮い立たせてくれる要因にもなっています。

私たちの仕事に男女の差はないのですが、あえて言うのであれば“しなやかさと柔軟さ”を兼ね備えた女性管理職でありたいと強く思います。

## Q 管理職を志した理由やきっかけは？

えりも町立東洋小学校に勤めている時に、管理職の先生からお声をかけていただきましたが、私は当時、小学生の二人の子どもの子育て中でしたので、最初はお断りしたんです。

でも、今後の自分のキャリアや「今まで自分が学んできたものを生かせることは、何だろうか？」と考え、様々な選択肢を描く中で、管理職が自分を一番生かせる道と考えました。

## Q 管理職になるために必要だった支援は？

一番の支援は、家族の理解です。主人からは「やりたいのであれば、やってみればいい。サポートするよ」と話をしてくれたので、決心しました。

また、町内に主人の両親が住んでいて、子育ての支援を得ることができました。

もう一つ大きな支援は、居住地への配慮です。家庭状況を考慮し、公宅には住まずに自宅通勤をしても良いとっていただいたことも、管理職を目指す上で大きな後押しとなりました。

## Q 管理職になって気づいたことは？

家族については、子どもが小学生ということもあって、自宅から通勤できる安心感はとても大きかったです。

仕事については、管理職としての責任の重さをとても感じています。

女性管理職については、「女性だから、できることがあるのではないかな？」「女性だから、気づけることがあるのではないかな？」と思っていますので、それを強みに変えていきたいと思っています。

## Q 管理職のやりがいや魅力は？

一つ目は、全ての職員とコミュニケーションを取り、職員の良さや考えていることを理解し、それぞれの良さを引き出せることです。二つ目は、職員とたくさん接することを通して、様々な見方や考え方を持つようになることです。三つ目として、自分の中で大きかったのは「日高管内女性管理職会(通称:やまなみの会)」の存在です。本会に参加することで、全道、全国規模で、女性管理職として志を共にしている仲間に出会うことができますので、とても魅力だなと感じています。

## Q 後輩教職員へのメッセージは？

女性ミドルリーダーへのメッセージになりますが、一人で頑張り過ぎる人や、体調が悪くても我慢強い人が多いなと感じています。子どもたちのために頑張る気持ちは素晴らしいことですが、自分の健康は家族の健康でもあるので、自分のことを一番大事にして欲しいです。

また、「女性管理職に求められる資質能力があるのではないかな？」「女性にしかできないことや、女性にしか気づかないこともあるな」と感じますので、そういうところを強みにして大事にして欲しいと思っています。

## Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育てを始める職員には、夫婦二人で頑張り過ぎないで欲しいと思っています。

困った時は、周囲にSOSを出す、職場の同僚を頼るなど、子育ての大変さを分散するようにして欲しいです。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！  
是非御覧ください！

### 1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

えりも町立東洋小学校に勤めている時に、管理職の先生からお声をかけていただきましたが、私は当時、小学生の二人の子どもの子育て中でしたので、最初はお断りしました。

でも、今後の自分のキャリアを考えるといろんな不安が出てきて、それで「今まで自分が学んできたものを生かせることは、何だろうか？」と考え、その選択肢の一つが管理職でした。

40歳を過ぎていたので、体力面で不安を抱えながら、子育てをしながら、管理職選考を受検することに多少不安を感じていましたが、この先50歳台になっていくことを考えた時、管理職が自分を一番生かせる道と考えました。

### 2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

一番の支援は、家族の理解です。

管理職選考を受検するにあたり、主人には「いろんな面で負担をかけるけれど、管理職を目指したい」と相談しましたが、主人からは「やりたいのであれば、やってみればいい。サポートするよ」と話をしてくれたので、決心しました。

また、町内に主人の両親が住んでいて、子育ての支援を得ることができましたので、管理職を目指すことができました。

もう一つ大きな支援がありました。それは居住地への配慮です。

家庭状況を考慮し、公宅には住まずに自宅通勤をしても良いと言っていたいただいたことも、管理職を目指す上で大きな後押しとなりました。とても感謝しています。

### 3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

家族については、子どもが小学生ということもあって、自宅から通勤できる安心感はとても大きかったです。

今、振り返ると、一般教諭の時より管理職の方が「自分の子どもとゆっくり話をする時間が増えたかな」と思うこともありますね。

仕事については、一般教諭時代に抱いていた体力面の不安は軽減されましたが、管理職としての責任の重さをもっと感じています。

女性管理職については、「女性の管理職で大丈夫か？」という声を耳にすることがありますが、私は逆に「女性だから、できることがあるのではないか？」「女性だから、気づけることがあるのではないか？」と思っていますので、それを強みに変えていきたいと思っています。

### 4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

一つ目は、全ての職員とコミュニケーションを取れることです。

一般教諭時代は、あまり話をしたことがない先生もいましたが、管理職になってからは、1日1回は職員にいろんな声かけをして、話をし、その職員の良さや考えていることを理解し、それぞれの良さを引き出せることが管理職の魅力と思っています。

また、若い先生方との会話や助言などを通して成長に関われることは、管理職のやりがいですね。

二つ目は、職員とたくさん接することを通して、様々な見方や考え方を持つようになることです。

一般教諭時代は、「この人はこうだから」という先入観を持ちやすかったのですが、やはり、それではいけません。「鳥の目、魚の目、虫の目、蝙蝠の目」という言葉がありますが、全体を見回したり、俯瞰して見たり、時の流れをキャッチしたり、自分の足下を見直したり、逆から見てみたり、そういう幅広い見方ができるようになったのも、管理職の大きな魅力と考えています。

三つ目として、自分の中で大きかったのは「日高管内女性管理職会(通称:やまなみの会)」の存在です。

女性管理職会は全道、全国規模でもありますが、日高管内女性管理職会に参加することで、全道、全国規模で、女性管理職として志を共にしている仲間に出会うことができますので、とても魅力だなと感じています。

(次ページへつづく)

#### 4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。(前ページからつづき)

日高管内の女性管理職会は、近年、会員が増えてきました。

また、日高教育局が毎年開催している「女性教職員を対象としたミドルリーダー養成研修会」では、この数年、私たち管理職が講師やファシリテーターを務めながら研修を進めさせていただいておりますが、参加している先生方の意識の変化や、キャリアアップを考えている女性職員が増えてきていることを感じています。

本校(様似小学校)にも女性ミドルリーダーはいますので、声をかけたり、相談に乗ったりしていますが、女性管理職会や女性管理職が次の世代にバトンを繋いでいくことは、とても大事なことと思います。

#### 5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

女性ミドルリーダーへのメッセージになりますが、一人で頑張り過ぎる人や、体調が悪くても我慢強い人が多いなと感じています。

子どもたちのために頑張る気持ちは素晴らしいことですが、それは「病気に気づいた時には、既に手遅れだった」ということになってしまうことがあるので、様々な制度を活用しながら、自分の心身を上手に休ませることも必要ではないかと思っています。自分の健康は家族の健康でもあるので、自分のことを一番大事にして欲しいです。

また、「女性管理職に求められる資質能力があるのではないか?」「女性にしかできないことや、女性にしか気づかないこともあるな」と感じますので、そういうところを強みにして大事にして欲しいと思っています。

例えば、話の内容によっては「女性の管理職であれば話がしやすいです」という職員もいますので、悩みを抱えている職員にとって、心強い存在であれば嬉しいですね。

#### 6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか?

子育てを始める職員には、夫婦二人で頑張り過ぎないで欲しいと思っています。

困った時は、周囲にSOSを出すとか、職場の同僚を頼るとか、そのようにして二人で抱え込まないで、少しでも子育ての大変さを分散するようにして欲しいです。

#### 7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか?

子どもの参観日や、子どもが急に熱を出した時にいただいた「仕事のことは気にせず帰っていいよ」という声かけは、とても嬉しかったです。

ただ、子どもの小・中学校の入学式、卒業式は出席できませんでした。

これは仕方ないことで、私だけでなく、当時の先生方は出席できない人も多かったのではないかと思います。

私の代わりに祖母が卒業式に出席してくれたのですが、後から娘に「お父さんだけじゃなくて、おばあちゃんも卒業式に来てくれたから良かった」と言われ、救われた気持ちになりました。

#### 8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか?

女性が活躍できる社会になってきてはいるものの、どんなに頑張っても“上手くいくのは当たり前”、うまくいかないと途端に“女性だからね”と言われることがあるのも事実です。それが自分を奮い立たせてくれる要因にもなっています。

私たちの仕事に男女の差はないのですが、あえて言うのであれば“しなやかさと柔軟さ”を兼ね備えた女性管理職でありたいと強く思います。

[インタビュー実施月:令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。